

第 49 回 遺伝カウンセリング学会学術集会

P-075

北海道 札幌 2025. 8. 1. ～8. 3.

題名：性染色体異常をともなう胚の移植に向けた意思決定支援について

Decision-making support towards the transfer of embryos with sex chromosome abnormalities by pre-implantation genetic testing

^{1, 2}浅井淑子、¹井上朋子、¹長滝谷芳恵、²庵前美智子、²中岡義晴、^{1, 2}森本義晴

¹HORAC グランフロント大阪クリニック、²IVF なんばクリニック

【背景】

反復不成功および反復流産や夫婦染色体構造異常にたいしての PGT-A、PGT-SR が本邦でも臨床で実施されるようになり、妊娠予後などの知見が得られるようになってきた。PGT-A/SR では基本的には性染色体の情報は開示しないことになっているが、性染色体に異常がある場合はその限りではない。常染色体と同様に性染色体の異常は着床率や妊娠継続率に影響を及ぼす。また生殖能力への影響や、ジェンダー決定への社会的影響もあるため十分な遺伝カウンセリング(GC)が必要である。

【方法】

当施設で PGT-A・SR を実施症例のなかで、性染色体に異常所見のあったのは 12 症例 14 胚盤胞であった。再生検を行い、正常胚との確認を得た 1 症例・1 胚盤胞を除外した 11 症例 13 胚盤胞について GC の状況、胚移植にむけた意思決定、移植の結果について考察を行った。

【結果】

多くの症例ではほかに正常胚があり、移植優先度が低い、もしくは常染色体でのモザイク所見を合併しているなどの理由で廃棄もしくは移植胚として使用しない決定がなされていた。胚移植は 3 症例 3 胚盤胞で実施された。妊娠成立を 1 例に認めたが妊娠 11 週で流産となった。流産絨毛染色体検査では正常男性型であった。

【結論】

カウンセリングでは性染色体の異常所見は、LGBTQ などととらえられるクライアントもあり、社会的に性の多様性の認識が広がっていると同時に正しい知識を伝えることが大事であると感じた。